

でるた



かみいけ わたる
上池 わたる

未曾有の大地震と津波が東日本を襲ったその日、私はたまたま東京にいた。交通網や通信機能がまひして大量の帰宅難民が発生した首都圏のど真ん中で、

後に諸外国から称賛を受けた「日本人の秩序ある行動」を目の当たりにし

た。折しも、病院の秩序を乱す

患者さんが増えてきたことを憂い、医療従事者への言葉の暴力対策を講じていた直後だったが、日本人も捨てたものじゃないと認識を新たにしました。

そもそも、私のモットーは「和気満堂」である。研修医時代の師匠、故・曲直部寿夫大阪大教授から学んだ禅語で、その場が和やかな気で満ちるという意味

だ。医療現場において円滑なコミュニケーションは重要で、「和気満堂」が医療安全を左右するといっても過言ではない。念のため断っておくが、私が目指す「和気満堂」とは、なあなあの関係ではない。注意を受けた時、自分のために言ってくれていると素直に思える文化である。医療現場に携わるすべての人が、師弟関係・職種・医局を超えて何でも言い合える、真のチーム医療を実現したい。

私は患者さんも医療チームの一員であると思っている。協力し合わなければ、良質の医療は提供できない。

和気満堂

声の大きい人が勝ちというので

は困る。この国難に際しての東北の人たちの秩序ある行動を見ると、私たち日本人に脈々と受け継がれてきた気質や文化を誇らしく思う。医療に従事するわれわれと患者さんやその家族との関係も、「和気満堂」でありたいものだ。（国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 院長 呉市）